

東京ベイeSGまちづくり戦略(ドラフト)について

1 主な社会背景

・東京2020大会の成功

大会のレガシーを発展させ、あらゆる面で「段差」のない社会を創り上げるなど、東京の真の成熟へと結び付けていく必要がある。

・気候危機

IPCC特別報告書(2019年9月)では、2100年における世界の平均海面水位は、地上平均気温が約2°C上昇の場合、最大で0.59m上昇すると予測されており、気候変動の影響により頻発化・激甚化する風水害などから命を守る万全の危機管理は、都の最も基本的な責務であり、誰もが活躍するための大前提である。

・新型コロナ危機

新型コロナ危機はテレワークやデジタル化の進展など経済・社会への影響とともに、人々の生活等への意識にも変化をもたらした。都市の持つ集積のメリットは生かしつつも、新しい日常にも対応するサステナブル・リカバリーの考え方に立脚した都市づくりを推進する必要がある。



2 ベイエリアで東京の次なるステージの都市づくりをリードしていく

東京の役割

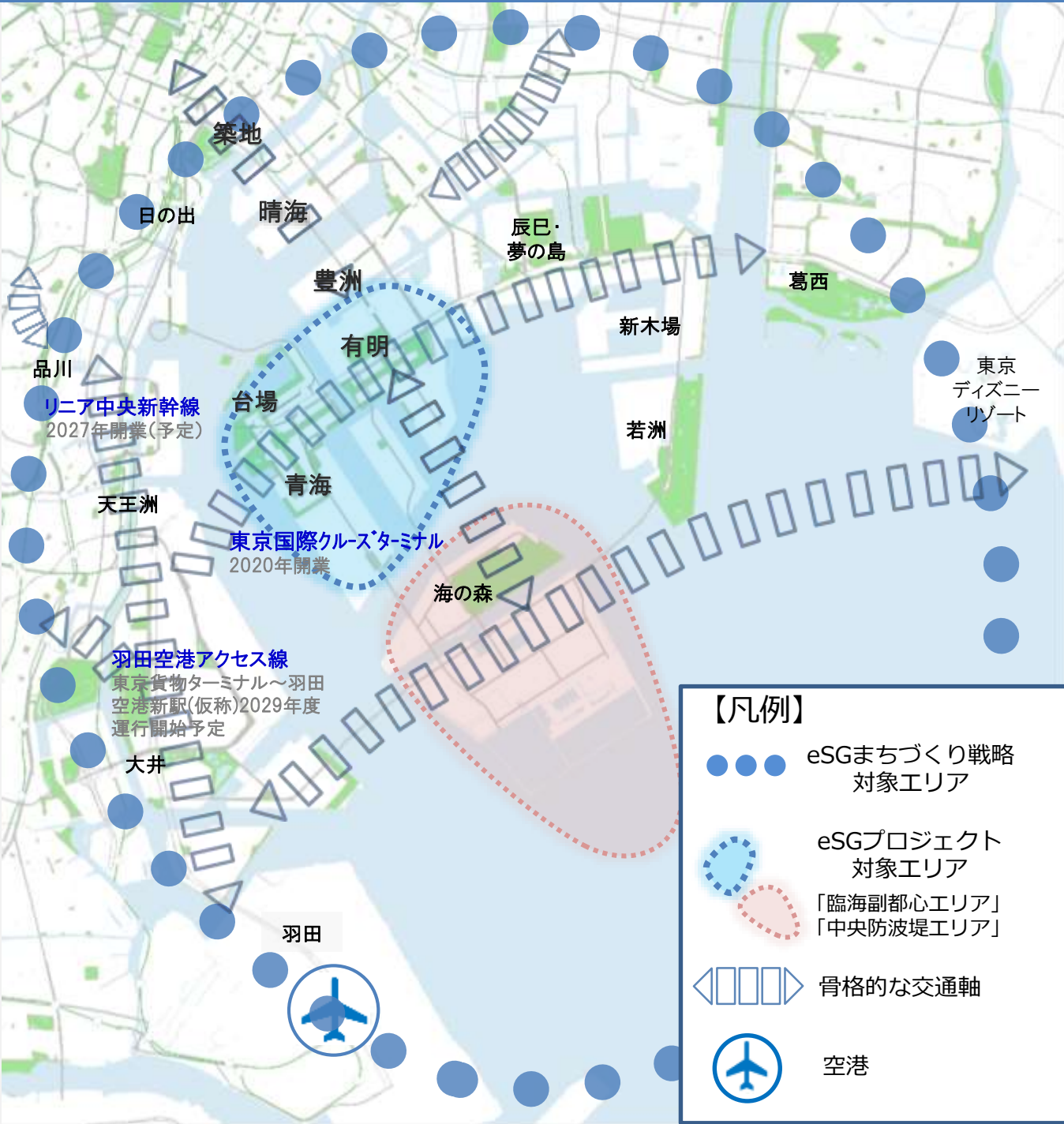
国家の競争力を決定づけるのは、**世界から選ばれる都市**の存在であり、それこそが首都・東京の役割

東京の使命

命を守る万全の危機管理を大前提として、多様な集積を源泉に、常にイノベーションを生み出す都市として成長を続け、**国の発展を牽引することが東京の果たすべき使命**

ベイエリアは、気候危機に対応し、海と緑の環境に調和したサステナブルな次世代都市として、世界から人と投資を呼び込み、**“成長と成熟が両立した持続可能な都市・東京”**を先導するエリアとして発展していく。

対象エリアと将来像・取組の考え方



- 50年・100年先に未来の都市が実現しているための20年・30年先の将来像。
- その2040年代の将来像を実現するために、現在から実施すべき取組。

